

群 教 セ	G05 - 03
	平23.243集

# 小学校音楽科の鑑賞領域における 音楽のよさを感じ取り味わって聴く児童の育成 — 3段階の学習活動に交流の活動を取り入れて —

長期研修員 木暮 潔

## 《研究の概要》

本研究は、小学校音楽科の鑑賞領域において「音楽のよさを感じ取り味わって聴く児童の育成」を目指し、児童が「知覚する」「感受する」「味わう」の段階を踏みながら、音楽の聴き方を学ぶ手だてを工夫したものである。音楽を聴いた初めの印象がどの「音楽を形づくっている要素」と関連があるのかを考え、曲の特徴をとらえたのち、それと友達のとらえた「曲の特徴」や「曲想」を交流しながら聴き取りを深めていく活動を行った。

**キーワード** 【音楽—小 鑑賞 知覚 感受 音楽を形づくっている要素 交流】

## I 主題設定の理由

学習指導要領音楽科の改善の基本方針として、「音楽のよさや楽しさを感じる」「思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする」ことが示された(H20.1 中央教育審議会答申)。また、音楽科の課題として「児童生徒が、音や音楽を知覚し、感性を働かせて感受することを重視することが求められている」「歌唱の活動に偏る傾向があり、表現の他の分野と鑑賞の学習が十分でない状況が見受けられる。特に、創作と鑑賞の充実が求められている」(H18.2 中央教育審議会経過報告)などが挙げられた。小学校学習指導要領解説音楽編においては、鑑賞領域で「音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聴き取る力を育て、それによって音楽の面白さやよさ、美しさを感じ取ることができるようにする」と示されている。

しかし、児童の実態として「音楽のよさや美しさを感じ取ることが好きな児童は多いが、音楽を形づくっている要素について考えたことがある児童は少ない」また、教師の課題として「音楽を特徴付けている要素や仕組みを聴き取ることのできるように指導の工夫をしている教師の割合が少ない」ということが明らかになっている(H22.7 特定の課題に関する調査(音楽)国立教育政策研究所)。県内の調査においても、「曲想と要素の働きとの関連を理解している」の正答率が、他と比較して低い状況である(H23.4 ぐんまの子どもの基礎・基本習得状況調査速報)。

このような現状を踏まえ、小学校音楽科の鑑賞領域において、一人一人が楽曲から感じたことを基に、それを「音楽を形づくっている要素」と結び付けながら、知覚や感受を深める指導の工夫が必要であると考えた。また、「友達とかかわり合いながら、主体的に音楽を学ぶ喜びを味わうような学習活動を充実していく」(学習指導要領解説音楽編)ことも強調されており、本研究において、児童が交流し、友達とかかわり合いながら知覚、感受を深めていく学習活動を工夫していきたいと考えた。

そこで、まず、①出会った楽曲の初めの印象を「曲の印象を表す短い言葉」で表し、なぜそのように感じたのかを「音楽を形づくっている要素」と結び付けながら考え、「曲の特徴」を聴き取り知覚するとともに、一人一人がとらえた特徴を交流して知覚を深める。次に、②知覚したことを基に、音楽の気分、雰囲気、表情などを醸し出している「曲想」を感じ取り、感受するとともに、それを交流しながら言葉に表すことによって感受を深めていく。そして、③言葉に表した曲想を交流することにより、様々な音楽の感じ方を知り、音楽に対するイメージを広げることができる。その上で、自分のイメージを明確にし、それを想像しながらじっくり聴くことによって、味わいながら聴くことができると考えた。

これらの3段階の学習活動を通して、児童は知覚・感受を深め、音楽のよさを感じ取り、味わって音楽を聴くことができるようになることを考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

鑑賞の学習において「音楽を形づくっている要素」を基に聴き取った「曲の特徴」や、感じ取った「曲想」を交流する活動を取り入れた学習活動を工夫することにより、児童が知覚や感受を深め、音楽のよさを感じ取り味わって聴けるようになることを、実践を通して明らかにする。

## III 研究の見通し

- 1 「曲の印象を表す短い言葉」と「音楽を形づくっている要素」を関連付けて考えた「曲の特徴」を交流することによって、児童が自分の聴き取ったことを整理したり、友達の聴き取り方に気付いたりすることができ、自分の聴き取り方を広げ、知覚を深めることができるであろう。
- 2 「曲の特徴」を基に感じ取った「曲想」を、交流しながら「短いお話」に表すことによって、自分の感じ方を広げ、感受を深めることができるであろう。
- 3 曲想を基に表した「短いお話」を伝え合って交流することにより、イメージを膨らませ、音楽を味わって聴くことができるであろう。

## IV 研究の内容

### 1 音楽のよさを感じ取るとは

音楽のよさとは、音楽を聴く喜びを感じることができる音楽の面白さや美しさなどである。これは、曲想とその変化が生み出すものである。曲想はその楽曲に固有な気分や雰囲気、味わい、表情を醸し出しているものである。曲想を生み出しているのは、「音楽を形づくっている要素」のかかりによって作られる楽曲の構造であり、曲想の変化は「音楽を形づくっている要素」のかかり合いの変化によって起こる。したがって、音楽のよさを感じ取るためには「音楽を形づくっている要素」から「曲の特徴」を聴き取らせ、それを基に、音楽の気分、雰囲気などを醸し出している曲想を感じ取れるよう指導することが必要である。

### 2 音楽を味わって聴くとは

音楽を聴き、思わず涙が流れたり胸がジーンとしたりする時があるように、特別な意識がなくても音楽を聴いて自然に心情が動くことは、十分に音楽を味わって聴いている時に起こることである。そして、このような情操をもって音楽を聴くことが、将来の子どもたちへの願いである。

音楽科の指導における、音楽を味わうとは、音楽から感じ取ったものの価値を自らの感性によって確認することである。本研究では、曲想を感じ取り、さらにそれを膨らませたイメージを作って、それを想像しながら聴くこととする。自分が感じ取った曲想だけでなく、友達が感じ取った曲想も知り、イメージを膨らませるとともに、それに自分の感じ方を重ね、自分のイメージを明確にして聴くようにさせたい。

### 3 3段階の学習活動と交流の活動について

それぞれの児童が、段階ごとに聴き取ったり感じ取ったりしたことを伝え合い、交流することによって、自分の感じたことを整理したり友達の感じ方に気付いたりし、聴き方を広げることができる。そして、知覚・感受を深めることができ、曲の特徴や曲想を感じ取りよさを味わって聴くことができるようになることを考えた。

#### (1) 学習をすすめる段階

本研究は、次の3段階で学習を進める。

##### ① 知覚する

児童は楽曲と出会い、初めの印象をもつ。そして、初めの印象を「曲の印象を表す短い言葉」

で表す。この際、発達段階や語彙力の実態に応じて、言葉の例を提示して参考にさせたり、その中から選択できるようにしたりする。次に、なぜそう感じたのかを「音楽を形づくっている要素」と結び付けながら考え「曲の特徴」をとらえる。そして、児童一人一人が導き出した「曲の特徴」を、楽曲の気分を観点とした類型化を通して交流(交流1)し、同じ曲でも様々な気分を感じることがあることを知る。そして、自分が導き出したもの以外の特徴を知ったり、自分と同じ思いをもつ友達がいることに気付いたりする。この際、ねらい以外の要素に気付いたり、感受にかかわる曲の情景などを想像した児童については、そのとらえ方や感じ方を認め、賞賛した上で、交流によってねらいとする要素にも気付かせるようにする。これらのことにより、自分の感じ方を広げることができ、知覚を深めることができると考えた。

## ② 感受する

自分や友達が聴き取った曲の特徴を基に、楽曲の気分、雰囲気、表情などを醸し出している「曲想」を自分なりの感じ方で考え、友達と交流(交流2)しながら言葉で表すことを通して、感じ方を広げ、感受を深めることができると考えた。具体的には、席が近くの児童同士2人でペアを作り、そのペアごとに話し合いながら、曲から想像できる様子を一つの「短いお話」に表す。異なる思いをもつ児童同士が交流しながら「短いお話」を作ることにより、イメージを広げたり自分とは違った感じ方に気付いたりして、お互いの感受を深められる。また、文を書くことに抵抗があったり、どのように感じ取ったらよいか分からなかったりする児童でも、友達と一緒に考えることにより、お話作りに取り組むことができ、感受を深めることができるようになると思った。

## ③ 味わう

友達の感じ取った様々な曲想に触れ、イメージを膨らませた上で、音楽が醸し出す雰囲気や情景などを想像しながら聴くことにより、味わって聴くことができると考えた。具体的には、感受する段階で、児童のペアで作った短いお話のすべてを児童に紹介する(交流3)。そして、その中から気に入ったお話や気に入った部分などがあれば、それらを取り入れたり参考にしたりしながら、曲から想像できる様子を「自分のお話」に表す。友達が作ったお話を知ることにより、一人や、感受する場面でペアとなった友達との間だけでは感じられなかったイメージを知ることができ、よりイメージを膨らませることができると考えた。そして、「自分のお話」の様子を想像しながら、じっくりと味わって音楽を聴かせたい。

なお、学年段階に応じて、低学年においては曲の「気分」を感じ取ったイメージを、中学年では「曲想とその変化」を、高学年については、音楽の流れや音楽の移りゆく変化や豊かさなども含めた「曲想とその変化など」を、「自分のお話」のイメージの中に表せるようにさせたい。

## (2) 音楽を形づくっている要素とは

「音楽を形づくっている要素」とは、「音楽を特徴付けている要素」及び「音楽の仕組み」に加え、音楽というものを形づくっている要素を含むものである。本研究では、「音楽を形づくっている要素」のうち、学習指導要領に新しく示された〔共通事項〕を基に、「音楽を特徴付けている要素」と「音楽の仕組み」に絞って研究を進める。

「音楽を形づくっている要素」と〔共通事項〕の内容とその関係は、図1のとおりである。

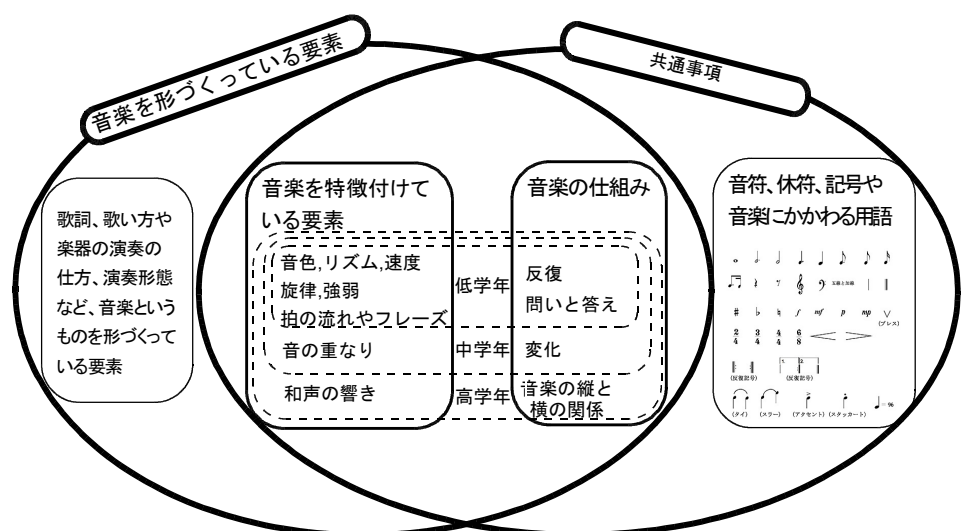


図1 「音楽を形づくっている要素」と〔共通事項〕の関係

(3) 知覚・感受とは

知覚とは、音や音楽を判別し、意識することであり、曲の客観的特性をとらえることである。本研究では、楽曲と出会った初めの印象を「音楽を形づくっている要素」を基にして、なぜそのように感じたのかを「曲の特徴」としてとらえることとし、曲の特徴を「こんな曲」（児童への問いかけは「どんな曲」）という言葉で児童に考えさせる。

感受とは、音や音楽の特質や雰囲気などを感じ受け入れることであり、曲の主観的特性をとらえることである。本研究では、知覚したことを基に、感じられる様子、雰囲気などを感じ取ることとするとともに、これを「曲想」を感じ取ることとし、「こんな感じ」（児童へ問いかけは「どんな感じ」）という言葉で、曲から感じる様子や雰囲気を想像することを通して児童に考えさせる。

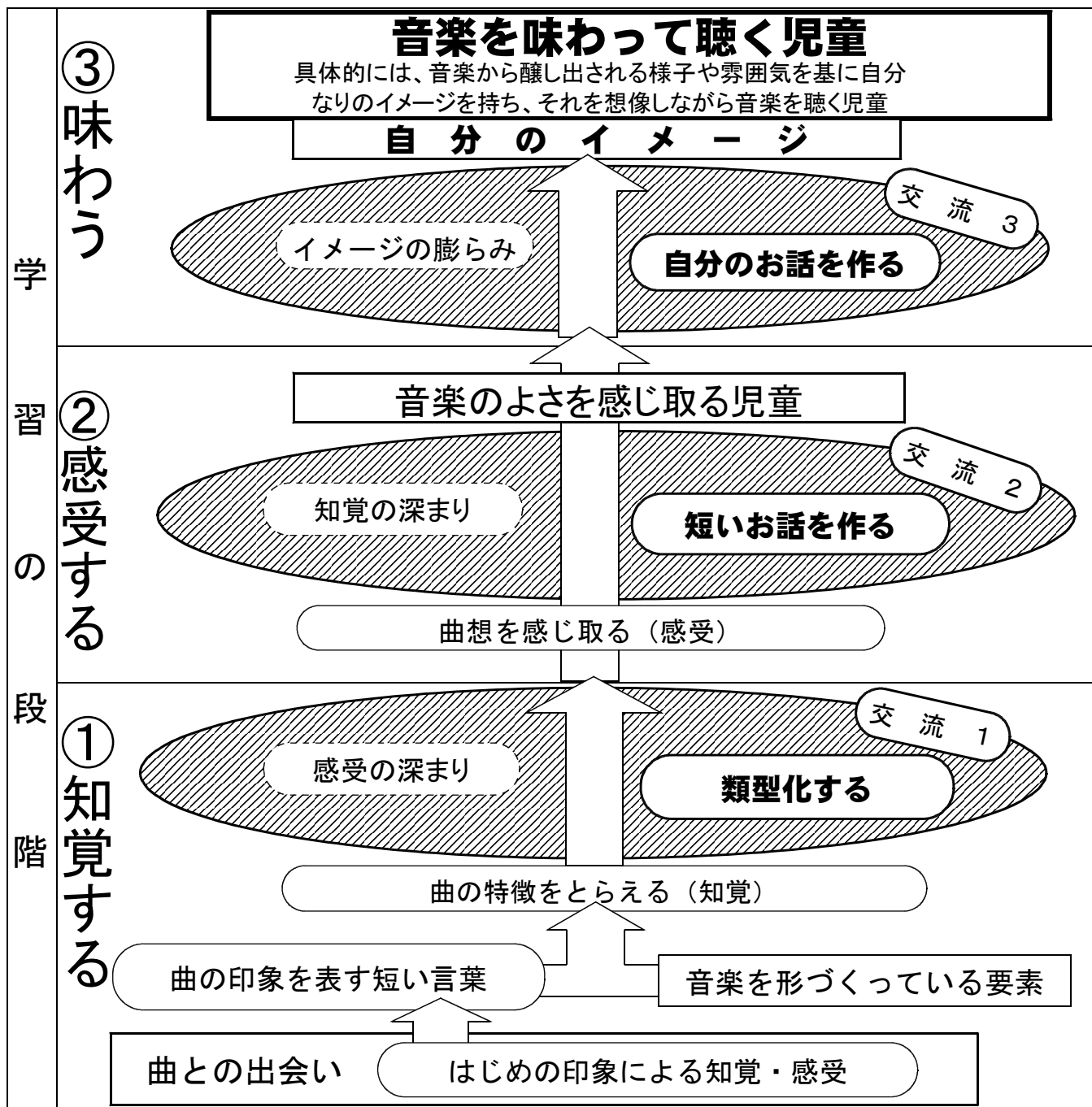


図2 研究構想図

## V 研究の計画と方法

### 1 授業実践計画

対 象	研究協力校 小学校第2学年 21名×1クラス 22名×1クラス 第3学年 26名×2クラス 第6学年 34名×1クラス 32名×1クラス
実施期間	平成23年 10月19日～ 11月18日 (18時間)
題 材 名	ようすをおもいうかべてきこう(低学年)*ねらいとする要素：強弱 教材：交響曲第94番「驚愕」第2楽章(ハイドン) きょくそうを想像してきこう(中学年)*ねらいとする要素：問いと答え 教材：ホルン協奏曲第4番第3楽章(モーツァルト) 曲想を味わって聴こう(高学年) *ねらいとする要素：音色、変化、反復 教材：バレエ組曲「くるみ割り人形」より“葦笛の踊り”(チャイコフスキー)
授 業 者	学級担任教諭 及び 長期研修員 木暮 潔

### 2 抽出児

A 2児:A 3児:A 6児 (2年):(3年):(6年)	鑑賞の学習に興味をもっており、自分のイメージをもちながら音楽を聴いている。
B 2児:B 3児:B 6児 (2年):(3年):(6年)	鑑賞の学習に苦手意識をもっており、自分のイメージをもちながら音楽を聴くことが難しい。

### 3 検証計画

	検証の観点	検 証 の 方 法
見 通 し 1	児童それぞれが聴き取った「曲の特徴」を交流することは、知覚を深めるのに有効であったか。	◎「ワークシート」への記入事項の考察 ・交流前のワークシートへの記入事項と、交流後の記入事項を比較し、新たな気づきやとらえ方が広がった記載があるか確認する。 ○学習活動の観察(授業中及びビデオ記録) ・友達の発言を聞いたり曲の表す気分を整理したりした後の、児童のつぶやきや表情に、自分と違ったとらえ方を知った驚き、喜びがあるか確認する。
見 通 し 2	「曲想」を交流しながら「短いお話」に表すことは、自分の感じ方を広げ、感受を深めるのに有効であったか。	◎「ワークシート」への記入事項の考察 ・児童が記入した「短いお話」が、音楽を形づくっている要素を踏まえた上で、自分なりに感じた曲想を表しているか確認する。 ・交流前のワークシートへの記入事項と、交流後の記入事項を比較し、イメージが深まった記載があるか確認する。 ○学習活動の観察(授業中及びビデオ記録) ・交流時の話題が、曲想を感じ取ることにに関する話題であったか、楽しそうに交流できているか確認する。
見 通 し 3	曲想を基に表した「短いお話」を交流することは、イメージを膨らませ、音楽を味わって聴くのに有効であったか。	◎「ワークシート」への記入事項の考察 ・自分のイメージを明確に記入しているか確認する。 ・音楽から想像できる様子を思い浮かべながら聴くことができたという自己評価の記載があるか確認する。 ○学習活動の観察(授業中及びビデオ記録) ・音楽を聴くときに、次のように聴いているか確認する。楽しそうに音楽を聴いている。うれしそうに音楽を聴いている。音楽に合わせて体を動かしながら音楽を聴いている。目をつぶって静かに音楽を聴いている。

### 4 題材の目標及び評価規準

目 標	音楽を形づくっている要素の働きによって生み出される曲の特徴をとらえ、音楽のよさを感じ取り味わって聴くようにする。	
	ア 音楽への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
評 価 規 準	①自分のイメージを明確にし、それを想像しながら聴く学習に、進んで取り組もうとしている。	①音楽を形づくっている要素を聴き取り、曲の特徴をとらえながら聴いている。 ②楽曲から想像したことや感じ取ったことを、短いお話に表すなどして、曲想をとらえ、音楽のよさを感じ取って聴いている。 ③楽曲から想像したことや感じ取ったことを自分のお話に表すなどして楽曲の醸し出すイメージをとらえ、音楽を味わって聴いている。

5 指導と評価の計画〈全3時間〉

時	○ねらい ・学習活動	◆評価規準	評価方法
第1時	○音楽の初めの印象と、音楽を形づくっている要素を結び付け、曲の特徴をとらえて聴く。 ・教材曲を聴き、感じた印象を「曲の印象を表す短い言葉」で表す。 ・「曲の印象を表す短い言葉」が、どの音楽を形づくっている要素の働きによるものかを聴き取り、「曲の特徴」として言葉に表す。 ・「曲の特徴」を発表し合い、教師による類型化によって、とらえ方を整理し、様々なとらえ方に気付く。	◆教材曲に関連のある「音楽を形づくっている要素」を聴き取り、曲の特徴をとらえながら、聴いている。【鑑-①】	ワークシートの記述 学習活動の観察
	○曲想を基に「短いお話」を作り、音楽のよさを感じ取りながら聴く。 ・曲の特徴を基に、教材曲を聴いて、想像したことや感じたことを、言葉に表す。 ・音楽から想像できる様子を、友達と一緒に「短いお話」に表し、音楽のよさを感じ取る。	◆教材曲から想像したことを、短いお話などに表して、曲想をとらえ、音楽のよさを感じ取って聴いている。【鑑-②】	
第3時	○「短いお話」からイメージを膨らませて「自分のお話」を作り、様子を想像しながら味わって聴く。 ・「短いお話」の中から、好きなお話を選んだり、参考にするなどして「自分のお話」を作り、イメージを明確にする。	◆教材曲から想像したことを、自分のお話に表して楽曲の醸し出すイメージをとらえ、音楽を味わって聴いている。【鑑-③】	ワークシートの記述 学習活動の観察
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">                     学年段階ごとの評価規準                      低学年：「気分」が短いお話の中に表されている。                      中学年：「曲想とその変化」が短いお話の中に表されている。                      高学年：「曲想とその変化など」が短いお話の中に表されている。                 </div> ・「自分のお話」の様子を想像しながら教材曲を聴く。	◆自分のイメージを明確にし、それを想像しながら聴く学習に進んで取り組もうとしている。【関-①】	

VI 研究の結果と考察

1 「曲の印象を表す短い言葉」と「音楽を形づくっている要素」を関連付けて考えた「曲の特徴」を交流することは、児童が自分の聴き取ったことを整理したり、友達の聴き取り方に気付いたりすることができ、自分の聴き取り方を広げ、知覚を深めることに有効であったか。

(1) 全体のワークシートへの記述から

交流による聴き取り方の広がりを示す【第1時用ワークシート】「友だちの言ったことでよいと思ったこと」、及び【第2時用ワークシート】「こんな感じだと思います」に記述されている内容を交流前と比較した結果、交流により約90%の児童に聴き取り方の広まりが確認できた(図3)。

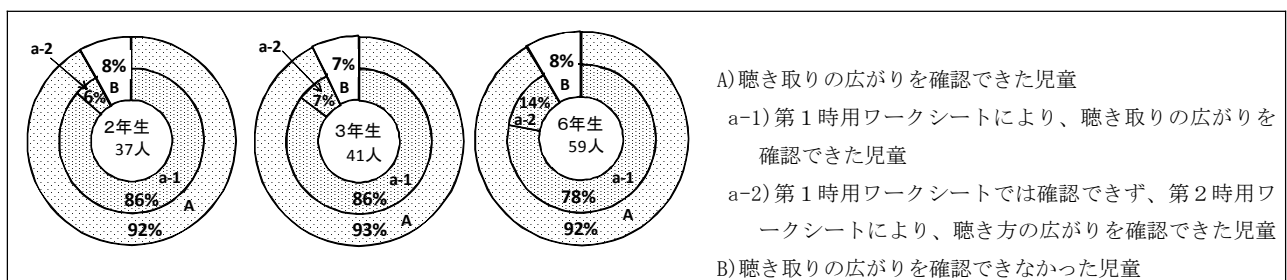


図3 交流1による聴き取りの広がり

また、知覚の支えとなる音楽を形づくっている要素を、どの時点でとらえたかを確認したところ、

どの学年でも、交流後にねらいとする要素をとらえた児童がいることを確認できた(図4)。

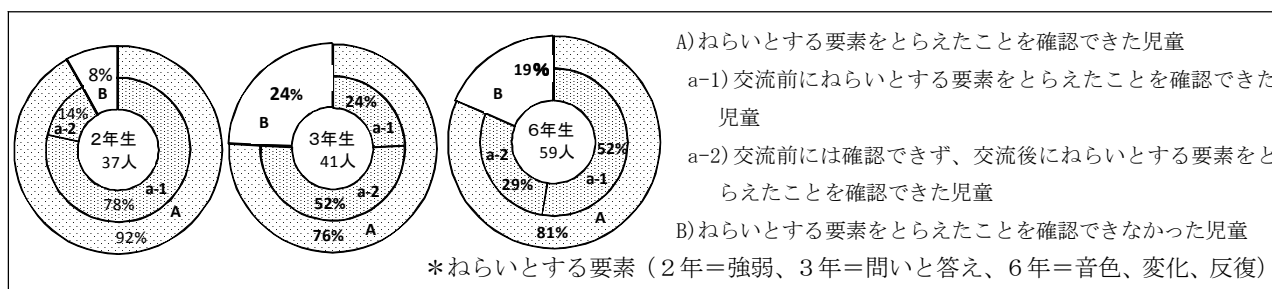


図4 音楽を形づくっている要素のとらえ

## (2) 抽出児のワークシートへの記述から

抽出児のワークシートへの記述は、資料1のとおりである。

### 資料1 抽出児のワークシートへの記述内容

抽出児	「曲の印象を表す短い言葉」ととらえた「曲の特徴」 (交流前)	新たな気付きと広がり (交流後) (友達の言ったことでよいと思ったこと)
A 2児	びっくりする曲 理由は、最後の音が大きい	爆発
B 2児	はげしくびっくりする曲 理由は、つよさが大きい	人と人がぶつかった
A 3児	やわらかくてにぎやかな曲 理由は、音が交代していて、大きい音もある	森、山びこ、音符がはねている、歌いながら踊っている、みんなで楽しくはしゃいでいる
B 3児	流れるような曲 理由は、強くなったり弱くなったり	話をする感じ、楽器のパーティー
A 6児	さわやかな感じの曲 理由は、いろいろな音色がきれいに重なっている	速さ、爽快、日の光が差し込んでいる、自然の中で踊っている
B 6児	ゆったりして響きのある曲 理由は、強弱がはっきりしている	鳥のよう、くり返し、かがやく、落ちつく

\*ねらいとする要素にかかわる記述はゴシック(2年=強弱、3年=問いと答え、6年=音色、変化、反復)

いずれの抽出児童についても、ワークシートの「友達の言ったことでよいと思ったこと」の欄に、初めに自分が書いた特徴以外のものを記入しており、交流によって聴き取り方が広がったことが確認できた。また、交流前には、ねらいとする音楽を形づくっている要素をとらえられていない児童でも、交流後にはそれに関する記述をすることができ、音楽と音楽を形づくっている要素を結び付けて聴くことができた。

## (3) 学習活動の観察から

授業中の観察及びビデオ記録の確認から、交流時、交流後の整理の段階において、友達のとらえ方を認め、自分の聴き取り方を広げる資料2のようなつぶやきやしぐさが確認でき、学習活動に意欲をもって取り組んでいた。

### 資料2 児童のつぶやき、しぐさ

「ああ (なるほど)」、うなずき	2年
「ああ (なるほど)」、うなずき、目を閉じて	3年
上を向き友達の発表した様子を想像する	
「ああ (なるほど)」、うなずき、拍手	6年

以上のことから、「曲の印象を表す短い言葉」と「音楽を形づくっている要素」を関連付けて考えた「曲の特徴」を交流することは、自分の聴き取り方を広げ、知覚を深めることに有効であったと言える。

## 2 「曲の特徴」を基に感じ取った「曲想」を、交流しながら「短いお話」に表すことは、自分の感じ方を広げ、感受を深めることに有効であったか。

### (1) 全体のワークシートへの記入から

交流前の【第2時用ワークシート】の「こんな感じだと思います」と、交流後の友達と作った「短

いお話」に記述されている内容を比較した結果、2年生では84%、3年生では95%、6年生では97%の児童に、感じ方の広がりや感受の深まりを示すイメージの広がりが確認できた(図5)。

また、「こんな感じだと思います」(交流前)を記入した時点で、ねらいとする音楽を形づくっている要素をとらえることができていなかった児童(2年生3人、3年生10人、6年生11人)のうち、2年生1人、3年生4人、6年生7人が、その要素を支えとして感じられるイメージを、交流後の「友達と作ったお話」に表すことができていた。

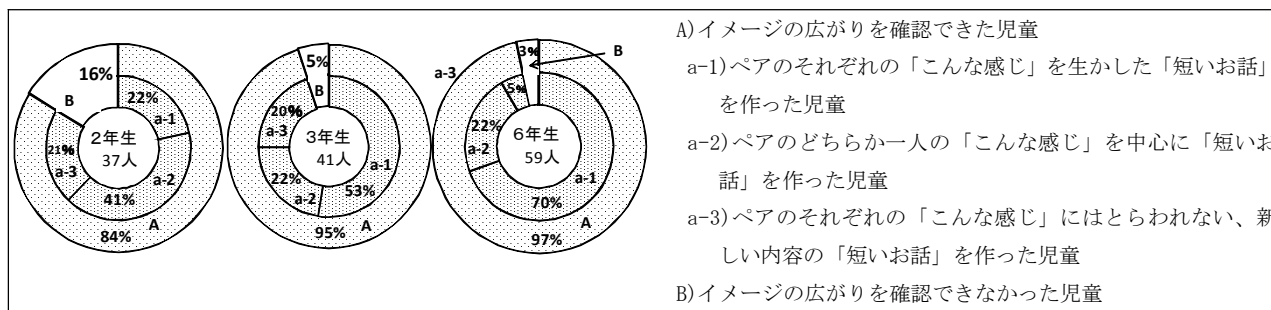


図5 交流2によるイメージの広がり

## (2) 抽出児のワークシートへの記入から

抽出児のワークシートへの記述は、資料3のとおりである。

### 資料3 抽出児のワークシートへの記述内容

抽出児	こんな感じ(交流前)	友達と作った「短いお話」(交流後)
A 2児	お城で、お姫様と王子様が、きれいな音楽をひいている。	ある日、お城で、お姫様と王子様がきれいな音楽を練習していました。明日は、お城のパーティーです。たくさんの人が来ます。みんなワクワクしています。
B 2児	にぎやか	公園で遊んでいたら、犬が吠えてびっくりした。
A 3児	森にいるみたい	森の中で踊っていたら、森全体が音符だらけになっている気がしました。犬とうさぎと一緒に音符とはねて遊んでいました。そしたら、ほかの動物たちが、奥の方から出てきました。たぬき、ねこ、くまが、トランペットを持ったりホルンを持ったりして、ふいていました。そのときに、追いかっこが始まった。とってもおもしろくて、あばれました。最後は、みんなで踊って笑って、パーティーをして、みんな帰った。
B 3児	朝、日が昇るよう。	新しい朝に、ホルンの音楽で鳥がいつせいにとんでいくような感じ。強いときは高くとぶ。弱いときはひくくとんで、バイオリンはまがる、ラッパはもどると指示をして、空をとびまわるような感じ。
A 6児	森の植物や、いろいろな森の動物が、みんなで歌やいろいろな楽器を使って、楽しく演奏していて、とてもいいと思った曲を聴き合っていた。	ある日、子どもが原っぱで本を読んでいて、知らない間に寝てしまった。それで、その子どもが夢を見ていました。夢の中の森で、動物たちと仲よく歌ったり、演奏したりおどったりしていました。その曲は、とってもすてきな曲でした。楽しくやっているところに、腹をすかせた熊があらわれました。そこで、身のきけんを感じた子どもが、森の木にあるハチミツを・・・
B 6児	小さい小鳥たちが、楽しそうに歌っているような感じ。	一人の旅人が、ゆっくり山を登ろうとしました。さわやかな風を感じながら登っていきました。そして、山頂で小鳥や虫たちとたくさんの人と、ワルツを踊りました。

\*ねらいとする要素にかかわる記述はゴシック(2年=強弱、3年=問いと答え、6年=音色、変化、反復)

ワークシートの記述から、いずれの抽出児についても、交流前よりも交流後の方が、イメージが明確になったり、広がったりしたことが確認できた。

## (3) 学習活動の観察から

授業中の観察及びビデオ記録の確認から、交流時において、楽しくお話を作る様子が確認できた。また、スムーズに話し合いを始められないペアも数組あったが、教師の声がけなどの机間支援によって、すべてのペアがお話作りに取り組んでいた。

以上のことから、曲想を交流しながら「短いお話」に表すことは、自分の感じ方を広げ、感受を深めることに有効であったと言える。



3 曲想を基に表した「短いお話」を伝え合って交流することは、イメージを膨らませ、音楽を味わって聴くのに有効であったか。

(1) 全体の「ワークシート」への記入から

【第2時用ワークシート】の「短いお話」と【第3時用ワークシート】「こんなお話がよいと思います(自分のお話)」に記述されている内容を比較した結果、2年生では73%、3年生では80%、6年生では85%の児童に、イメージの広がり確認できた。また、そのうちの多くが、友だちのお話の様子を参考にしたり言葉を取り入れたりするなど、交流3によるイメージの広がり確認できた(図6)。

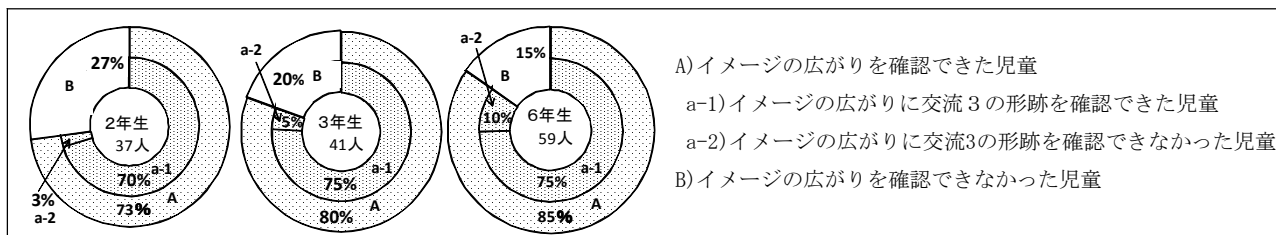


図6 交流3によるイメージの広がり

(2) 抽出児の「ワークシート」への記入から

抽出児のワークシートへの記述は、資料4のとおりである。

資料4 抽出児のワークシートへの記述内容

抽出児	「自分のお話」(交流後)	授業後の感想 (想像しながら聴けた=○)
A 2児	あるところに、お父さんとお母さんと女の子がうす暗い森に入りました。森に入ったら、すごい不気味な声がかけてきました。鳥も動物も、にげていきます。女の子は、わあわあ泣きました。お母さんも「もう帰ろう」と言いました。でも、お父さんは、どんどん入っていきました。うす暗く手前が見えなかったので、木にぶつかってしまいました。お父さんが木にぶつかったとき、突然森の奥の方から、きれいな音楽が聞こえてきました。まるで、プロがひいているようでした。お父さんたちは、音楽の聞こえる方へ行って見ました。音楽の聞こえる方へ行って見たら、リスや鳥や鹿や熊、動物たちが木の枝や石や葉っぱで、音楽をひいていました。	1回目は、びっくりする曲だと思いました。2回目は、おもしろい曲と、きれいな曲だなど思いました。3回目は、お話を作るのが、とっても楽しいと思いました。 (○)
B 2児	にぎやかなパーティーで、窓から熊が見てました。それで、誰か1人が気がついて大騒ぎになってしまいました。逆に熊がびびって逃げていきました。	すてきな歌でした。また聴きたいです、またやりたいです。 (○)
A 3児	ある日、公園で遊んでいた、トモコとミコとサトミが山の方から、音楽と音符が競争をしているみたいで、流れてくるのに気付きました。それから、公園で遊んで、遊んでいた人たちの手に、音符と音楽が乗っかりました。そしたら、公園で遊んでいたトモコとミコとサトミが、踊り始めました。トモコとミコとサトミはその音符と音楽を、手でギュッと持っていました。そしたら、みんなが目が回るくらい「くるくる」「くるくる」回りました。そこで、男の子の、リュウスケとケイトとハムトがきました。その男の子たちも、音符と音楽を手にとって踊りました。そして、ずーっと踊っていたら、みんなは、おなかがすいてしまって、音符と音楽は、山の方へと帰って行きました。みんなが見た空も、夕方になっていました。みんなは、家にもどって、また自分たちの部屋で、「ワンツースリー」と言って、踊っていました。そして、寝言でも「ワンツースリー」と言っていました。その次も、また踊って、みんなと笑いました。ずっと踊っていて、音楽を持ってきてみんなで踊りました。	やってみて、たくさん絵がうかんできた。様子も出てきて、いろいろ分かった!! とっても楽しかったよー! (○)
B 3児	ある日、散歩していたら、音楽が流れてきた。そしたら、世界中のみんなが歌っているような気がした。気がついたら、ホルン協奏曲の楽器の音がいろいろ流れてきた。バイオリンやラッパやピアノや笛の音がきて、世界中のみんなが歌って、そして、起きてみたら下がにぎやかだから、下を見てみると、みんな動物がきて・・・。	頭の中が、絵になったような気がした。 (○)
A 6児	ある日、町の奥にきれいな海がありました。そこには、一匹の魚が、きれいに気持ちよさそうに泳いでいました。そこで、一匹の魚は、海の奥から、聞こえてくる曲に乗って、きれいに踊っていました。そしたら、ほかの魚たちがいっぱい集まってきて、一緒に踊っていま	この3時間では、どんな曲かを書いたり、友達と物語を書いたり、一人で書いたりしました。私は、一つの曲でお話を想像するのがと

	した。その魚たちは2人ペアになって、すてきな曲に合わせて、息ぴったりで、仲よく踊っていました。その魚たちがゆかいに、踊っているところに、あやしい影が、どんどんこっちに近づいてくるので、踊りをやめて遠くの方に、静かに逃げていこうとしたときです。その魚たちより体の大きい魚が、いきなり速いスピードでおそってきたので、魚たちは一斉に逃げました。サメは、その魚たちを見失ってしまったのでした。それに気付いた魚たちは、また、一人ずつ息ぴったりで、ゆかいに踊りや演奏や歌ったりもしながら、楽しそうに、ずっと踊っていました。	でも好きなので、葦笛の踊りの曲を聴いたときから、物語が頭の中にいろいろ浮かんできました。私は、森の中を想像していたけど、みんなは、海や空、いろいろな場所の想像をしていたので、こういうのもいいなあと思いました。また、こういう機会があったら、違う曲でも想像してみたいなあと思いました。(○)
B 6 児	小鳥たちが、楽しそうに歌を歌ったり、踊ったりして、それを動物や植物が目を閉じてじっくり聴いているような感じ！（森で）	葦笛の踊りを例に、どんな曲か、その曲で話を作って想像するという事で、あらためてよい曲だと思いました。すごく楽しかったです。この3日間すごく勉強になりました。曲を聴くとき、先生に教えてもらった方法で、聴いてみたいです。(○)

\*評価規準にかかわる記述はゴシック（2年＝気分、3年＝曲想とその変化、6年＝曲想とその変化など）

いずれの抽出児童についても、自分のイメージをワークシートに記述することができ、第2時に友達と作ったお話よりも、詳しい話が記述されていた。また、ワークシートの「想像して聴くことができたか」の自己評価欄には、「想像することができた」にチェックが入った。

### (3) 学習活動の観察から

2、3年生の児童の中には、湧き出るイメージを文にするのに夢中になり、鉛筆を止めることができない児童もいたが、それ以外の児童は、目を閉じてじっくりと音楽を聴いたり、体を音楽に合わせて動かしたりしながら、音楽を聴く様子が確認できた。

以上のことから、「短いお話」に表した「曲想」を交流することは、イメージを膨らませ、音楽を味わって聴くことができるために有効であったと言える。

## Ⅶ 研究のまとめ

### 1 成果

3段階の学習活動に交流の活動を取り入れたことは、次のように有効であった。

- 曲との出会いによる知覚・感受を基に、知覚する、感受する、味わうの段階を追うことによって、音楽を味わって聴く方法を身に付けさせることができた。
- 交流の活動により、自分ではとらえられなかったとらえ方を知り聴き方を広げることができた。
- 交流の活動により、様々な感じ方があってもよいことを知り、自分の感じ方に自信がもて、自分なりのイメージを明確にもつことができた。

### 2 課題

- 音楽を聴き味わう場面で、湧き出るイメージを書き記したいと、ワークシートにお話を書きながら音楽を聴く児童が見られた。児童の意欲を大切にしながら、まとめ方を工夫する必要がある。
- イメージを言葉に表すだけでなく、絵や体の動きに表すなど、教科横断的に表現方法を検討していきたい。

### <参考文献>

- ・群馬県教育委員会 『平成23年度学校教育の指針』(2011)
- ・国立教育政策研究所 『評価方法等の工夫改善のための参考資料(音楽)』
- ・渡邊 學而 著 『音楽鑑賞の指導法』 (財)音楽鑑賞教育振興会(1987)

(担当指導主事 荻野 葉子)